

比例・こむら、小選挙区候補が省庁要請 こくた・清水衆院議員(比例)、大門参院議員が同席



要請書を手渡す、こむら候補(手前右)と、左へ宮野、福原、後ろへ太田、清水議員、赤田の各候補

26日、こむら潤比例候補を先頭に、宮野つるお、赤田かつのり、福原ゆかり、太田清幸の兵庫の各小選挙区候補が、国会内で政府要請をおこないました。

要請行動には、こくた恵二、清水ただし両衆院議員と大門みさし参院議員が同席、市田忠義参院議員・副委員長が昼休みに参加者を激励しました。

要請先は、厚生労働省、文部科学省、経済産業省、財務省、農林水産省、国土交通省。

要請内容は、新型コロナ対策が中心で、医療機関への支援、PCR検査拡充、保健所体制強化、

解雇規制や労働者への休業補償、中小業者への持続化給付金の再給付、融資、家賃支援、少人数学級、学生支援緊急給付金の再募集などです。

切実な声を届け、国の対策の強化を求める

こむら候補らは「尼崎市内の民間総合病院では赤字が2億円にものぼっている。国や県からの現行の補助を活用しているが、長期化する中でさらなる支援が必要」、「コロナ禍で川崎重工明石工場では、少なくとも3つの派遣会社で派遣先での仕事がなくなると即、派遣元からも首切りされている」、「フードバンクにくる学生の話の聞くと食べるのも我慢している状況。教育を受ける権利を保障するためにも、予備費も活用して支援を」など訴え、国の施策の強化を求めました。



発言する、こくた議員(左)

国民の運動と党の論戦が政府を動かす

このなかで、学生支援給付金については、翌日の衆院文科委での畑野君枝議員の質問にこたえた萩生田光一文科相が、12月に再追加配分の実施を表明。

兵庫の要請でも、文科省の担当者が「民青の方からよくお話は伺っている」と発言するなど、この間の運動と党の論戦が対策を動かしています。

20 近畿ブロック事務所ニュース

TEL06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員団御中・部内資料】

No. 65 (2020. 11. 28)